

日本の農業を救う

カリスママ

新連載①

山形県 井上農場代表井上馨さん

山形県鶴岡市の米どころ、そのうち多くの農家は庄内平野。株式会社井上農場(井上馨代表)は、離農、高齢化のため農業(ここで52畝(3200㎡)を続けることが困難だとの大規模稲作を展開している。

かつては面積3畝ほどの農家だった。だが米だかでは生計が立たず、地域ではどの農家も出稼ぎをしてきた。井上さんも同じだ。

農業の平均所得は123万円

農林水産省の米の相対取引価格は玄米60キ税込、収量は594キ。井上さんみで全国平均価格1万3千500円(2022年)。3畝だと米の収量は1万

7820キ。60キで297袋。価格は411万3450円。ここから人件費、肥料・燃料・種苗・道員などを差し引くととなる。農水省統計によれば全国平均の農業所得は年間約8回の都内や近郊のデパートや催事に出かけている。米は真推奨の「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」のほかに「ひとめぼれ」の青果仲間を通して関東「東京のデパート」に直接出荷し冬場の仕事も生み出している。

農協経由から直販に切り替えて所得を増やす!



都内デパートの催事で販売をする井上さん

る。今は通販で玄関先まで届けられるので、顔の見える関係でお米を注文していたけるようになる。販売先は個人客を中心からロンドンへの輸出もつなげた。売上げは1億4000万円。今ではスタッフは役員を合わせて16人。田植えや稲刈りの時期にはパートを頼むなど雇用も生業にも取り組んでいる。

「出羽桜」五百万石「雪女神」を5畝で栽培。井上農協の米はすべて、特別栽培米(慣行の0.5種類)の気軽に食べ比べができる米だ。それに2キと5キ入りの米がある。

ハウスを利用したトマト、小松菜も栽培。地元の出荷し冬場の仕事も生み出している。

水曜掲載